

第4回定例会の 主な日程

令和3年第4回定例会は、左記の会期日程で開催されました。

11月24日(水)	本会	議
(開会、知事提出議案説明)		
11月28日(日)	本会	議
※休日議事(第7面)		
11月29日(月)	本会	議
11月30日(火)	(一般質問・質疑)	
12月2日(木)	常任委員会	
3日(金)	決算特別委員会	
12月6日(月)	議	
12月7日(火)	変革期をリードする新時代の茨城づくり調査特別委員会	
12月9日(木)	本会	議
(委員長報告、採決、閉会)		

一般質問(要旨)

●質問者

11月28日(日)	鈴木 将 議員 いばらき自民党
高橋 勝則 議員 いばらき自民党	
田口 伸一 議員 いばらき自民党	
飯田 智男 議員 いばらき自民党	
高橋 直子 議員 いばらき自民党	
大和田 寛樹 議員 いばらき自民党	
11月30日(火)	金子 晃久 議員 いばらき自民党
遠藤 実 議員 いばらき自民党	
(県民フォーラム)	島田 幸三 議員 いばらき自民党

議会中継は、こちらから録画映像でご覧いただけます。



高橋 勝則 議員
いばらき自民党
古河市選出

離婚後の子育て、ひとり親世帯への支援

議員 離婚後も子どもの利益を最優先に考慮し、養育費の確保や適切な面会交流がなされるよう、県としても制度の周知や相談体制の整備をすべきと考えるが、所見は。保健福祉部福祉担当部長 制度や行政の支援策などをリーフレットやセミナーで周知するほか、今年度から行政書士による専門相談を開始した。住民に身近な市町村職員に、相談スキル向上のための研修を行うなど、ひとり親世帯の相談支援の強化に努めていく。

県西地域の振興

議員 若者層の流出を防ぎ、定住に結びつけていけるよう、地域の魅力を高める地域振興に力をいれべきと考えるが、所見は。

知事 企業誘致に弾みをつけ、若者に魅力ある働く場を確保していく。また、観光など交流拡大を促進するほか、生活環境の向上による定住促進に向け、土地区画整理事業やコンパクトシティ化などの市町村のまちづくりを支援していく。

(ほかに、障がい者に配慮した投票環境、農福連携の推進なども質問)



ひとり親世帯への支援策などを周知するリーフレット



飯田 智男 議員
いばらき自民党
常総市・八千代町選出

圏央道沿線への産業用地の確保

議員 圏央道4車線化を控え、県南・県西の沿線地域に対する企業の立地需要は一層高まると考える。市町村とも連携して集中的に産業用地を確保していくことが重要と考えるが、どう取り組むのか。

立地推進部長 つくばみらい市福岡地区において、約20年ぶりの県施行開発に着手した。市町村の開発計画の事業化を積極的に支援するとともに、さらなる県施行の対象地区検討のための調査を進め、産業用地の確保を図っていく。



県が開発に着手した、つくばみらい市福岡地区の産業用地

石下紫峰高校等における外国人特例枠の拡大

議員 石下紫峰高校、結城第一高校における外国人特例枠の拡大について、どのような目的のもとに実施し、今後どのように外国人籍生徒への指導を行っていくのか。

教育長 外国人生徒が個々の能力を発揮できる教育体制を構築し、地域社会の担い手として活躍できるように育成する必要があると考える。2校をモデル校として、学習支援や学校生活支援、入試関係の観点で支援を強化していく。



鈴木 将 議員
いばらき自民党
つくば市選出

ヤングケアラー^{※1}への支援

議員 ヤングケアラーは、年齢や成長に見合わない責任を負うことや、教育や育ちに影響を及ぼすことや、誰にも相談できず孤立してしまうことが危惧される。支援が必要だが、県の対応の方向性は。知事 現状では、ヤングケアラーの人数など基本的な情報が不十分なため、まずは中学校と高校の生徒などを対象とした実態調査が必要と考える。また、ヤングケアラーに対する県民の認知度向上などを図るため、普及啓発を実施する。

農業水利施設の老朽化対策と防災・減災対策

議員 農業用河川工作物^{※2}やため池などの農業水利施設については、老朽化対策と防災・減災対策を加速化させる必要があるが、対応は。農林水産部長 施設の老朽化対策を計画的に進めるとともに、施設に起因する災害の未然防止を図る。また、農業用河川工作物の更新に当たっては、土地改良区や農業者、河川管理者と施設の統廃合も含めた整備の在り方を検討していく。



田口 伸一 議員
いばらき自民党
鹿嶋市選出

水素エネルギー拠点の地域間競争

議員 川崎臨海部は鹿嶋臨海工業地帯の倍の出荷額があり、モデル事業が採択されるなど、既に産業競争力強化と脱炭素化実現に向けて動き出している。エネルギー拠点競争にどう勝ち抜いていくのか。

政策企画部長 鹿島には設備の新しさや多様な産業集積、また、県内には多くの研究機関が立地する強みがある。港湾機能の高度化や次世代エネルギー需給の一体的創出など、企業が新たな取り組みを行いやすい環境整備に努めていく。

児童虐待への対応、性犯罪・性暴力根絶に向けた取り組みなども質問)



新たなエネルギーの拠点として飛躍が期待される鹿嶋臨海工業地帯

小中学校における教員の欠員の現状と対策

議員 教員の欠員の現状をどう認識し、今後、どのように人材確保と勤務環境の改善に取り組むのか。教育長 補充教員を適切に配置するため、各教育事務所の講師志願者情報を県全体で共有し、退職者をデータベース化して個別に働き掛ける。メディアの有効活用で志願者増に取り組み、働き方改革実践モデル校の成果を広め、教員が安心して働ける勤務環境をつくる。



高橋 直子 議員
いばらき自民党
土浦市選出

小児がん患者・子育て世代の支援

議員 がん患者と家族などの相談に乗って生活計画を作成、進捗管理するサービスや、居住一体型病室の整備、経済的支援の充実が必要と考えるが、どう取り組むのか。

保健福祉部長 いばらきみんなのがん相談室の設置、高額療養費借入金の利子補給などの患者支援を行っている。小児がん専門医療機関では宿泊施設も整備している。人材育成や患者サロン充実など、ICT活用も含めて相談体制を検討し、寄り添える支援に努める。

ジェンダー・ニュートラル^{※3}に向けた意識改革の推進



小児がん患者と家族に寄り添うレモネードスタンド活動^{※5}

※1【ヤングケアラー】…一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている18歳未満の子どもを指す概念。
※2【農業用河川工作物】…河川区域内の土地に設置された農業用水利施設のこと。例えば、河川から農業用水を取り入れるための堰(せき)や樋門(ひもん)などが該当する。
※3【ジェンダー・ニュートラル】…社会的・文化的に形成された性別を意味する英語genderと、中立を意味するneutralを組み合わせた用語。性別にとらわれ過ぎず、性別に中立な姿勢・態度を目指す考え方で、〈男〉〈女〉の分け方のみに過度に限定する考え方への疑義をも含む。

※4【ダイバーシティ推進センター】…県女性プラザと県男女共同参画支援室の機能を統合し、令和2年11月に県三の丸庁舎にオープン。誰もが個性と能力を発揮し、あらゆる分野で活躍できる人材の育成を推進するための拠点施設。なお、ダイバーシティとは「多様性」の意味。
※5【レモネードスタンド活動】…レモネードを販売して集まったお金を、小児がん治療のために寄付する社会貢献活動。